

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

科目名		ナンバリング		区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論Ⅲ		NSP23_001		必修	1	2	前期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー		
坂本 文子 他		418	fumiko.sakamoto		月～金曜日 12:10～13:00		
授 業 の 目 的 ・ 概 要		看護活動の基本的な看護技術のうち、基本的日常生活援助技術を学ぶ。 本科目では、苦痛の緩和・安楽確保の技術、清潔・衣生活援助技術、呼吸・循環を整える技術に焦点を当てて、対象者のニーズに基づいた援助を行うための知識・技術・態度を学修する。 看護技術は人を対象とするものであり、学生が自己の健康や日常生活における体験も活かし、対象の生活機能のアセスメントによるニーズを把握し、科学的根拠に基づいた看護技術を実施する。さらに看護実施による対象への影響を文献的・体験的に理解しながら、患者にとって安全・安楽で正確・確実な技術を修得することを旨とする。					
授 業 形 式 ・ 方 法		☒ 対面授業 ☐ 遠隔授業 (双方向型) ☐ 遠隔授業 (自主学習)	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習 ☐ 実技	☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ その他 ()			
学 習 上 の 助 言		1.生活援助技術は、人間の日常生活行動がどのような心身の機能を使っているかを理解した上での学習となる。各単元で必要な人体構造機能学、生化学、人間関係論等の復習・予習を行い授業に臨んでほしい。 2.不明点や疑問点はそのままにせず、授業内の意思表示や教員への質問等を行うことで解決するよう主体的に取り組んでほしい。また、自己練習により技術の修得に取り組むことを望みます。					
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②/有田清子ほか/医学書院/2021 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③/有田清子ほか/医学書院/2021 [2冊指定]					
参 考 書		新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第6版/深井喜代子ほか/メジカルフレンド社/2021 看護技術が見える vol.①基礎看護技術/編/医療情報研究所/メディックメディア/2018					
外 部 教 材		動画教材など、授業時に提示する。					
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針		
①	日常生活援助のニードをアセスメントする視点について説明できる。				NS(1)(3)		
②	日常生活援助技術の目的、方法、根拠について説明できる。				NS(1)(3)		
③	日常生活援助において基本技術の方法を修得できる。				NS(1)(3)		
④	実施した看護技術を患者役学生の反応から評価し、記述できる。				NS(1)(3)		
⑤	看護技術における倫理的判断と対象者の権利擁護の大切さについて説明できる。				NS(1)～(5)		
授 業 計 画							
回	学習内容等			授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1 2	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術			講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。		2
3 4	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術 (演習：ポジショニング、寝衣交換) 全員			演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。		2
5 6 7	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術 (演習：清拭・陰部洗浄) AB グループ別			演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。		3
8 9 10	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術 (演習：洗髪・足浴) AB グループ別			演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。		3
11 12	苦痛の緩和・安楽確保の為に必要なエビデンスと技術 (電法、熱布パックケア)			講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。		2
13 14	苦痛の緩和・安楽確保の為に必要なエビデンスと技術 (電法、熱布パックケア) 全員			演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。		2
15	身体の清潔を助ける為に必要なエビデンス と技術 (口腔ケア)・まとめ			講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。		1
試	筆記試験、技術試験						

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	30	0	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	50	10	0	0	20	80
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
問題を発見・解決する力		0	0	0	0	0	0
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①		授業中に講義した内容の理解度および知識の定着について、学期末に定期試験を実施して評価する。			試験問題・解答用紙を返却し、出題意図、解答についての解説を行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①	✓	単元ごとに学習課題を提示する。 演習時にレポートを活用できるようにする。 課題レポートの提出状況と内容により評価する。			提出されたレポートにコメントを記入し、返却する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①		演習時の身だしなみ、取り組み姿勢、授業の遅刻、授業態度を評価する。			授業時に評価をコメントする。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
備 考							
他 担 当 教 員		窪川理英、小石川好美、他、					
教員の実務経験		科目責任者は、看護師として 15 年の臨床経験、看護大学教員として 20 年の教育経験を持つ。					
実践的授業の内容		すべての看護技術は目的と根拠、患者への影響を踏まえて行うこと、そのための知識と技術の習得状況を確認しながら授業を進める。 演習では患者役看護師役とで実施後の振り返りを丁寧に行い、技術の習熟に活かすことを大事にする。					
そ の 他		今後の状況など社会情勢によって、シラパスの変更を行う可能性がある。					